
会社名 三光産業株式会社（7922）

説明内容 平成23年3月期第2四半期決算

説明要旨

- I. 三光産業のご紹介（初めてご覧になる方へ）
- II. 平成23年3月期第2四半期決算概要
- III. 今後の展開、平成23年3月期業績予想

I. 三光産業のご紹介

◎事業目的及び沿革

当社は粘着剤付きラベル・ステッカー・ネームプレート等の特殊印刷製品の企画ならびに製造販売を事業としております。

設立当初は、家電製品や自動車、オートバイ等に使用されるラベル・ステッカーの販売商社でありましたが、日本経済が大量生産時代に入り、安価な材料に対する安定供給のニーズが高まりだしたこともあり、昭和 42 年に方南工場、57 年に川越工場、60 年に大阪工場を設立してまいりました。主に、白物家電や自動車向けラベル・ステッカーの製造を行ってまいりましたが、機械や AV 機器関係へ用途を広げる中で、オーディオ用カセット、ビデオテープ、CD、DVD といったソフト関係へ展開し、国内の事業基盤を固めてまいりました。一方、顧客の海外展開に歩調を合わせ、昭和 63 年にマレーシア工場を、平成 13 年に香港に子会社光華産業有限公司を設立いたしました。また平成 15 年に中国深圳市に同社の生産委託工場を設置し、平成 19 年 2 月に同社の子会社として、深圳市に燦光電子(深圳)有限公司を設立いたしました。

◎当社製品の特徴

表示・取扱いラベル、CAUTION ラベルといった単純なラベルからスタートした後、FAX やコピー機のタッチパネル、テレビ・ビデオ等の表示銘板等の応用製品へ展開してまいりました。

現在では携帯電話機、デジタルカメラ等のデジタル機器向け外構部品や付属機器にまで製品範囲を拡大しております。

製品取扱い点数は約 4 万点、1 日の取扱い品目は 2,000 点と多く、顧客の生産計画の変更やデュータイムの短縮に対応できるように得意先ラインに直接納入する体制を構築しております。

特殊印刷分野で、シール印刷、オフセット印刷、シルク印刷と多様な印刷方式と加工を総合的に扱えることが特徴であります。

また、粘着剤やインクを扱うため環境問題には、特に注意を払っております。このため、ISO14000 の環境基準に準拠した製品作りを行っており、材料メーカーやインクメーカーと一体で環境問題に取り組んでおります。

◎経営の基本方針

当社グループはあらゆる印刷・加工技術を駆使して、装飾性の豊かさを追求することを社会的使命とし、このため素材と印刷のコンビネーションの極大値を実現する技術を蓄積すると同時に、地球環境問題を直視した経営を目標としてまいります。

上記の基本方針を実現するために、次の諸点を経営行動の指針として掲げております。

1. お客様と共に研究・開発に努め技術の蓄積を目指す。
2. 品質保証体制を確立し、多品種少量型の受注にも対応できる様生産設備の充実を目指す。
3. 営業力の向上に努め、真のマーケットリーダーを目指す。
4. 無駄な組織を排除し、効率化を追求する。

これからも環境の変化にスピーディーに対応して、お得意先からの信頼を更に高め、企業価値の最大化を目指してまいります。

◎当期のトピックス

2010 年 4 月～ 医療分野については医療機器メーカー、専門商社を対象として営業活動に注力した結果、大規模案件には至らないものの、数社の継続受注を獲得。

Ⅱ.平成 23 年 3 月期第 2 四半期(累計)決算概要

◎ 損益計算書の概要 (連結)

(単位：百万円)

	09/9 第2四半期(累計)		10/9 第2四半期(累計)		11/3 期《予想》	
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)
売上高	4,343	100.0	4,924	100.0	10,100	100.0
AV 機器関連	(1,081)	(24.9)	(1,169)	(23.7)	(2,700)	(26.7)
OA 機器関連	(1,685)	(38.8)	(1,961)	(39.8)	(4,000)	(39.6)
その他電気機器関連	(932)	(21.5)	(1,102)	(22.4)	(2,000)	(19.8)
輸送用機器関連	(260)	(6.0)	(362)	(7.4)	(700)	(6.9)
その他	(383)	(8.8)	(328)	(6.7)	(700)	(6.9)
売上総利益	688	15.9	896	18.2	1,900	18.8
営業利益又は営業損失(△)	△200	△4.6	22	0.5	120	1.2
経常利益又は経常損失(△)	△178	△4.1	22	0.4	130	1.3
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△165	△3.8	△72	△1.5	84	0.8

2010年9月第2四半期の業績に関しましては、前年同期と比べ増収となったものの、有価証券評価損等による特別損失の計上により、利益面では最終赤字の結果となりました。

○ 売上高に関しましては、国内大手メーカーの生産調整や海外移転の影響をうけ、国内では AV 機器関連業種及び OA 機器関連業種の受注量が減少いたしました。香港、中国を中心とするアジア向けの売上でカバーし、更に OA 機器のタッチパネル関係の受注が増加したこともあり、売上高は 4,924 百万円（前年同期比 113.4%）と増加いたしました。

- ・AV 機器関連は、中国を中心とした新興国の景気拡大に支えられて、AV 機器関連向けのラベル等の受注が引き続き好調なことにより、売上高 1,169 百万円（前年同期比 108.1%）と増加いたしました。
- ・OA 機器関連は、国内においてはセットメーカーの海外への生産移管により、OA 機器関連向けラベルの売上に影響があるものの、新規事業であるタッチパネル関係の受注量の増加により、売上高 1,961 百万円（前年同期比 116.4%）と増加いたしました。
- ・その他電気機器関連においては、セットメーカーの業績回復により、電池パックラベル、半導体設備関連ラベル等の受注量が増加し、売上高 1,102 百万円（前年同期比 118.2%）と増加いたしました。
- ・輸送用機器関連はエコカー補助金等を背景に国内自動車メーカーの販売台数回復により、自動車関連部品の受注量が増加し、売上高は 362 百万円（前年同期比 139.0%）と増加いたしました。
- ・その他の業種は、主としてアミューズメント関連の受注減により、売上高 328 百万円（前年同期比 85.8%）と減少いたしました。

- 売上総利益は、顧客企業の海外生産シフトおよび受注単価の低下の続くなか、合理化による生産効率の向上により、粗利率が 2.3 ポイント改善した結果、896 百万円（前年同期比 130.1%）となりました。
- 営業利益に関しましては、コスト削減を強力に推し進めたことにより、売上高販管費率は 2.8 ポイント改善し、営業利益は 22 百万円（前年同期は 200 百万円の営業損失）となりました。
- 営業外では、円高による為替差損の増加がありましたが、受取利息、受取配当金等でカバーし、経常利益は 22 百万円（前年同期は 178 百万円の経常損失）となりました。
- 特別損失については、保有投資有価証券の株価下落により投資有価証券評価損 102 百万円を計上したため、最終的な四半期純損失は 72 百万円（前年同期は 165 百万円の四半期純損失）となりました。

◎ 貸借対照表の概要（連結）

（単位：百万円）

	09/9 第 2 四半期末	10/9 第 2 四半期末	10/3 期末
流動資産	(7,306)	(7,505)	(7,425)
現金及び預金	2,964	3,065	2,794
売上債権	3,089	3,134	3,343
棚卸資産	1,060	1,015	1,094
その他流動資産	193	291	192
固定資産	(4,893)	(4,383)	(4,907)
資産合計	(12,199)	(11,888)	(12,332)
流動負債	(2,409)	(2,260)	(2,563)
買入債務	1,972	1,808	1,960
その他流動負債	437	452	603
固定負債	(313)	(597)	(606)
退職給付引当金	181	470	474
その他固定負債	132	127	131
負債合計	(2,722)	(2,857)	(3,169)
株主資本	(9,575)	(9,163)	(9,297)
評価・換算差額等	(△337)	(△374)	(△378)
少数株主持分	(239)	(241)	(243)
純資産合計	(9,477)	(9,030)	(9,162)
負債・純資産合計	(12,199)	(11,888)	(12,332)

2010年9月第2四半期末における財政状態は次のとおりであります。

- 当第2四半期末における流動資産の残高は7,505百万円（前期末7,425百万円）となり、80百万円増加いたしました。これは、主に受取手形及び売掛金の回収により売上債権が208百万円減少しましたが、償還期限が一年以内となったため長期定期預金から現金及び預金に振替えたことにより、現金及び預金が271百万円増加したこと等によるものであります。
- 当第2四半期末における固定資産の残高は4,383百万円（前期末4,907百万円）となり、524百万円減少いたしました。これは主に上記振替えにより長期定期預金の減少500百万円等によるものであります。
- 当第2四半期末における負債の残高は2,857百万円（前期末3,169百万円）となり、311百万円減少いたしました。これは主に支払手形及び買掛金等の減少152百万円のほか、設備関係支払手形の減少等により、その他流動負債が150百万円減少したこと等によるものであります。なお、買入債務額が売上債権額に比し低水準となっておりますのは、支払における現金の比率が40%と高いことが原因であります。
- 当第2四半期末における純資産の合計は9,030百万円（前期末9,162百万円）となり、132百万円減少いたしました。これは、主に四半期純損失の計上及び配当金の支払によるものであります。

◎ キャッシュ・フロー計算書の概要（連結）

（単位：百万円）

	09/9 第 2 四半期 （累計）	10/9 第 2 四半期 （累計）	10/3 期
営業活動によるキャッシュ・フロー	△199	290	△371
投資活動によるキャッシュ・フロー	326	△346	270
財務活動によるキャッシュ・フロー	△44	△101	35
現金及び現金同等物に係る換算差額	△6	△16	4
現金及び現金同等物の増加額(△減少額)	75	△174	△60
現金及び現金同等物の期首残高	2,823	2,763	2,823
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	2,899	2,588	2,763

当第 2 四半期累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前期末に比べ 174 百万円減少し、当第 2 四半期末には 2,588 百万円となりました。

当第 2 四半期累計期間におけるキャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

○ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は 290 百万円（前年同期比 490 百万円増）となりました。主な増加要因は、売上債権の減少額 173 百万円、棚卸資産の減少額 69 百万円、投資有価証券評価損 102 百万円及び減価償却費 133 百万円等であり、主な減少要因は、第 2 四半期累計期間の税金当調整前四半期純損失 70 百万円、仕入債務の減少額 101 百万円等によるものであります。

○ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は 346 百万円（同 673 百万円増）となりました。これは主に有価証券の取得による支出 101 百万円のほか、有形固定資産の取得による支出 293 百万円によるものであります。

○ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は 101 百万円（同 57 百万円増）となりました。これは主に短期借入金の返済による支出 39 百万円のほか、親会社による配当金の支払が 61 百万円発生したことによるものであります。

◎ 生産拠点（連結）

	印刷方式	生産実績(百万円)		10/9 第2四半期 (累計) 投資額(百万円)
		09/9 第2四半期 (累計)	10/9 第2四半期 (累計)	
方南工場	シール主体	123	180	4
千曲川工場	輪転機主体	162	180	—
川越工場	オフセット主体	377	287	—
大阪工場	シール・シルク主体	359	287	—
マレーシア	シール・シルク・輪転機主体	200	250	123
中国深圳	シール・シルク・輪転機主体	406	508	34
三光プリンティング	シール主体	120	108	—
	合計	1,747	1,800	162

○ 印刷方式

シール印刷は、色数が少ない、寸法が小さい、数量が少ないラベル関係の印刷が中心となります。シール印刷は方南工場を中核工場とし、千曲川工場、マレーシア工場、中国深圳工場等に大型機を設置しております。

シルク印刷は、テレビ、ビデオ、DVD等の表示部等の印刷をしております。

オフセット印刷は、シール印刷よりも寸法、ロット、色数が大きいラベル関係の印刷を行っております。

○ 生産実績

2010年9月第2四半期の自社工場生産額は、総生産額1,800百万円で売上高に対する生産比率は36.6%でありました。

○ 投資額

投資額につきましては上期工場全体で162百万円であります。

Ⅲ.今後の展開・平成23年3月期業績予想

◎ 今後の展開

[短期トレンド]

当社グループを取り巻く経営環境は、国内景気の不透明感に加え、得意先メーカーの海外生産移管による国内受注の減少とともに、中国、マレーシアを中心とする海外拠点においても、受注単価の低価等、引き続き厳しい状況で推移するものと思われま

す。このような状況のもと、国内においては、一般シール・ラベルの受注減は当面避けられないと考え、昨年度から量産を開始したタッチパネル関連商品の受注増でカバーすべく積極的な営業展開を行い、上期売上実績は840百万円となりました。下期に向けてタッチパネルに加え、AV機器用ガラス加工製品を中心に受注増が見込まれますので、この分野へ経営資源を投入し、受注の拡大を図ってまいります。

また、得意先メーカーの海外生産移管による一般シール・ラベルの国内受注の減少を、中国、マレーシアの現地法人を中心に、とりこぼしのない様、積極的な営業展開を行い国内受注の落ち込みをカバーしてまいります。

更に、得意先メーカーからのコストダウン要請に対応するため、自社・外注、国内・海外を問わず、生産体制の見直しを行い、一段と経営効率重視の会社運営を目指して収益の拡大を図ってまいります。

[長期トレンド]

当社グループがメインとする家電業界は、製品のライフサイクルが短期化すると共に、価格低下のスピードが早まっております。また、海外シフトによる国内市場の空洞化が進行しております。

この様な状況に対応する為、次の事項を基本戦略としております。

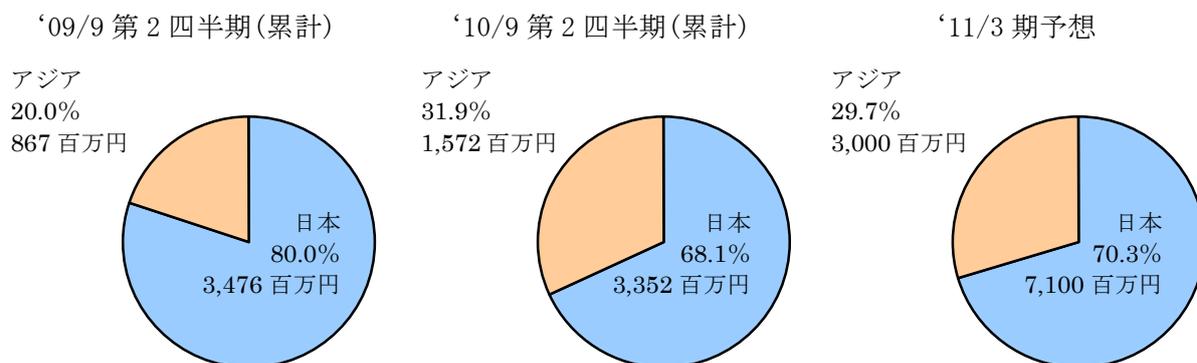
○中国展開

○成型品の拡大

○国内新市場の開拓

1. 中国展開

○地域別売上



中国展開については、これまで日系家電メーカーを中心に一般シール・ラベル製品を中心に事業展開を行ってまいりましたが、昨年度より携帯電話向けアクリル窓の量産を開始し、売上高も上期実績約12億円と対前期比倍増しており、引き続き増加基調で推移するものと見込んでおります。

また、拡大する中国市場に対応するため、日系家電メーカーをターゲットとして、蘇州に営業所等の開設を検討してまいります。

2. 成型品の拡大

- ・依然好調な携帯電話機のアクリル窓の他、家電向け外観部品など手掛けておりますが、今後は扱い品目の多様化と顧客層の拡大を図って参ります。
- ・技術面においては、蒸着、成型、スタンピング等の技術が必要ですので、専門の外注先の組織化を進めて参ります。
- ・成型加工自体は個別対応を要するので、ユーザー毎のニーズにあった外注先を確保しつつ、付加価値向上のため一部内製化を図って参ります。



その一端として、最近では、家電業界の中にもアクリルに代わってガラスを使用する動きが出てきており、当社でもガラス加工技術と印刷技術の融合を1つのテーマとして取り組んだ結果、家電メーカーのDVDレコーダーの前面パネルとして製品化を実現いたしました。また、最近では携帯用音楽プレーヤーの前面窓、デジタルカメラ用窓にも採用されており、特にデジタルカメラ用窓については、下期に向け受注の拡大を見込んでおります。

3. 国内新市場の開拓

- ・国内需要が見込めるその他の業種のうち、医療、アミューズメント、玩具景品等の分野については、受注方式を維持しつつ、当社オリジナル企画機能も組み込んで付加価値向上を目指してまいります。

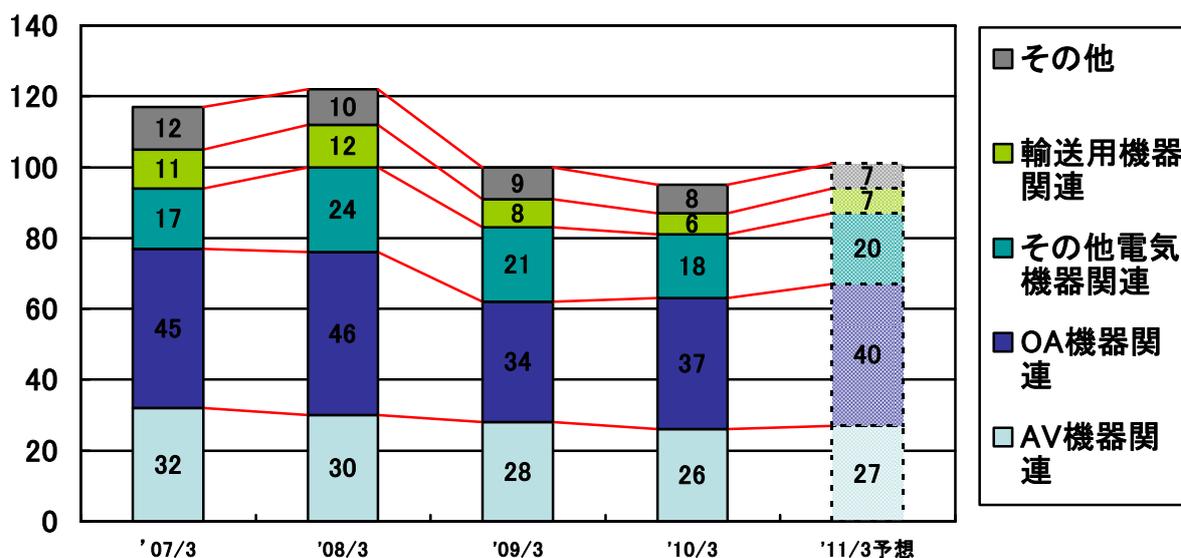


- ・医療分野につきましては今後とも医療機器メーカー、専門商社等を対象として、営業活動に注力いたします。
- ・非接触ICカード用の「きせかえシート」がバラエティグッズとして、今後も好調に推移するものと見込んでおります。

◎ 平成 23 年 3 月期の業績予想について（連結）

業種別売上高の推移（連結・通期）

（単位：億円）



当社グループの今後の取組みといたしましては、既述の長期経営戦略を基本としつつ、加えてローコスト体制の確立により、一段と経営効率重視の会社運営を目指してまいります。

中国展開におきましては、燦光電子（深圳）有限公司を中国における製造拠点として生産能力の強化と技術力の向上を図り、収益の拡大を目指してまいります。

また、国内市場においては、今後とも国内電機メーカーの海外生産シフトは続き市場の縮小が予想されますが、当面タッチパネル関連製品を収益の柱とし、この分野へ注力することで収益の落ち込みをカバーしてまいります。

通期の業績見通しにつきましては、連結売上高 10,100 百万円、経常利益 130 百万円、当期純利益 84 百万円を見込んでおります。

※上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としております。実際の業績は、今後、様々な要因によって大きく異なる可能性があります。

以上